

# 「一人一人の考えを深めるために、単元を貫く言語活動を位置付けた指導の工夫」

～第5学年国語「大造じいさんとガン」のリーフレットを作る実践から～

五泉市立五泉小学校 藤井 香利

## 1. はじめに

言語活動の充実を通して、思考力を育成するという観点から、授業実践を行った。文学作品を「読むこと」において、思考力を育成するためには、児童に興味・関心をもたせながら学習意欲を喚起していくことが重要であると考えた。そのために、「単元を貫く言語活動」を位置づけ、授業を展開していくことにした。

また、文学作品を「読むこと」の指導においては、「児童の主体的な読み」の姿が具現できるかどうか学習の深まりと大きく関連していると考えた。本実践では、このことについても有効な方策を探りながら、児童一人一人の考えを深められるよう授業改善に取り組んだ。

## 2. 目指した子どもの姿

本のリーフレットにまとめ、紹介することを通して、自分なりの読みを深める子ども
--

## 3. 授業の実際

(1) **単元名** 動物と人間のかかわりをえがいた物語を読み、リーフレットで紹介しよう。

(2) **教材名** 「大造じいさんとガン」

### (3) 単元の目標

動物と人間のかかわりを描いた本を読み広げ、本のリーフレットにまとめ、紹介することを通して言語活動を高め、考えを深める。		
関心・意欲 心に残った本を紹介するために、進んで本を読もうとしている。	読む 心に残ったことを紹介するために、登場人物の相互関係をとらえ、人物の心情を想像して読んでいる。	言語 言葉や表現方法を選び、自分の選んだ本に用いられている表現のよさをリーフレットにまとめている。
	書いたことを交流することで、感じ方や考え方の違いに気づいている。	

### (4) 単元の指導計画

文学作品を読み、リーフレットにまとめて紹介するという具体的な言語活動を位置付けた指導計画を立案した。単元の展開としては、第一次では、ブックトークや教師のモデル提示により、リーフレットについて知らせ、児童と話し合いながら学習計画を確認した。第二次では、教材を使ってリーフレットを作成し、第三次では、自分が選んだ本でリーフレットを作成するというものである。第二・三次には、考えを検討する場面として、児童間で意見交流をする活動を位置付けた。

次	学習活動	
第一 次	<p>○学習課題をつかみ、単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックトークを開き、物語への興味をもつ。</li> <li>・リーフレットについて知る。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>単元を貫く学習課題</b></p> <p>「心に残ったことをリーフレットで紹介しよう」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画を立てる。</li> </ul>	<p>ブックトークを聞き、リーフレットを作る<b>意欲</b>をもつ。</p>
第二 次	<p>○教科書教材「大造じいさんとがん」を読み、リーフレットを書く。</p> <p>1 物語の<b>自力読みの観点</b>を確認する。 (物語の構成・時・場・人物・あらすじ・表現・主題・表現)</p> <p>2 <b>あらすじ</b>を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の行動を場面ごとにまとめ、小見出しをつける。</li> <li>・小見出しをもとに、はじまりー出来事が起こるー出来事が変化するー終わりーと<b>順序づけて</b>、あらすじをまとめる。</li> <li>・書いたあらすじを交流し、見直す。</li> </ul> <p>3 <b>心に残った文</b>とそれに対する感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残った場面から文を選び、様子や気持ちを想像する。</li> <li>・心に残った文と感想を書き、意見交流する。</li> </ul> <p>4 <b>登場人物の気持ちの変化（ターニングポイント）</b>を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちの変化を自力読みで考える。</li> <li>・友達と意見交流し、登場人物の気持ちの変化（ターニングポイント）を読み取りまとめる。(本時)</li> </ul> <p>6 <b>作品のテーマ</b>について書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取りをもとに書く。</li> <li>・リーフレットを読み合い交流する。</li> </ul>	<p>本単元における<b>自力読みの観点</b>をとらえる。</p> <p>はじまりー出来事が起こるー出来事が変化するー終わりーと<b>順序づけて</b>、あらすじをまとめる。</p> <p><b>引用した文</b>に対する感想を叙述を踏まえて書く。</p> <p><b>登場人物の気持ちの変化</b>を叙述を踏まえて書く。</p>
第三 次	<p>○自分が選んだ本の<b>リーフレット</b>を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大造じいさんとがん」で学習した観点到に沿って、書く。</li> <li>・出来上がったリーフレットを読み合い交流する。</li> </ul>	<p><b>交流の場面</b>では、友達と自分のリーフレットを<b>比較</b>し、感じ方や考え方の違いに気付く</p>

(5) 指導の構え

**単元を貫く言語活動について**

ここでは、文学的な文章を読むための観点を身につけ、場面についての描写、登場人物の相互関係や心情を自分の力や友達と交流しながらとらえさせていく。また、単元を貫く言語活動として、「リーフレット」で友達に伝えるという活動を位置づける。「大造じいさんとガン」で、習得した学びを活用し、自分で選んだ本のリーフレットを書いていく。作品のテーマを読み取りまとめる言語活動は、読書に対する興味・関心を広げることにつながると考える。

## 考えを深めさせる交流について

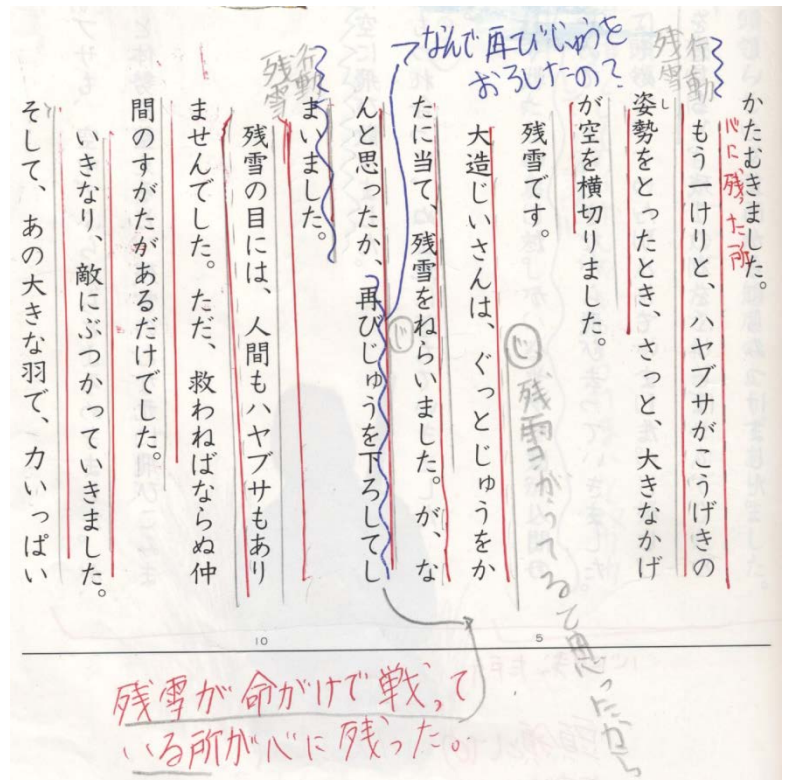
自分なりの読みをさらに深めさせるために、友達との意見交流を取り入れる。この意見交流は、二通りのねらいをもって、意図的に取り入れる。一つ目の意見交流は、様々な考え方があることを知り、考えを広げるためのものであり、二つ目の意見交流は、考えの違いを取り入れ、自分の考えを練り上げるためのものである。

## 単元における手だて

### 【手立て1】

自分と対話をする「自力読み」をしながら作り上げた自分なりの読みをベースにする。

物語のクライマックスとなる場面での大造じいさんの心情の変化を読み取らせるためには、文の細部にまで着目した読み取りが必要である。文章をじっくりと読ませるために、自分と対話をする「自力読み」をしながら文を読み取ることを指導する。また、自分に問い、答えを出すという対話をしながら文章を読むことで、主体的な読み取りができるようになる。



### 【手立て2】

交流の場面では、話し合いの観点をはっきりさせて意見交流をする。

友達と意見交流する場面では、話し合いの観点を明確にすることが大事な手だてとなる。それは、話し合いの場を与えただけでは、何を根拠に話し合ったらよいか分からないからである。

話し合いの観点は、大造じいさんの心情がどう変わったのか、それがどの文章表現からわかるかである。物語文の多くは、起承転結があることを学び、児童の作成するリーフレットには「ターニングポイント」としてまとめさせる。話し合いを通して、物語のクライマックスにおける大造じいさんの心情の変化を「ターニングポイント」としてとらえ、友達と意見交流する中で、読み取りを深めさせていく。

【手立て3】

自分自身の考えや読み取りを整理させ、リーフレットにまとめさせる。

話し合いを終えた後には、友達の考えの良さを自覚させるために、意見交流したことをまとめワークシートに記入させる。自分自身の考えや読み取りを整理することでリーフレットにまとめていくことに有効に働くと考える。友達と交流して得た新たな読みや自分自身でとらえ直したことを文章でまとめさせていくことにより、主体的な「学び」を獲得させていくことにつながる。

題名  
作者  
作者について  
他の作品

**本の題名**  
大造じいさんとガン

**作者**  
棕 鳩十

1905~1987年  
長野県生まれ 作家  
「マヤの一生」  
「月の輪グマ」

**あらすじ**  
大造じいさんは、かろうじてガンをつかまえて生活しているが、ガンの頭領の残雪のせいでガンがとまなくなってしまう。残雪をつかまえるためにいろいろな作戦を立てるが、一匹のガンがかつかまえることができない。ある日、そのつかまえたガンで残雪の巣をよびよせてつかまえることに成功する。しかし、その作戦も失敗してしまうが、大造じいさんの気持ちが大きく変わった。学校でけがをしてしまった残雪との別れで、また、学校のように戻る。

**心に残った場面**  
残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救われはなぬ仲間のおすがたがあるだけでした。  
残雪は、たよみ大造じいさんのまじりのガンでも、同じ仲間だから、ハヤブサから守ってあげようとする。ふつうの鳥ではできないような、残雪の仲間思いな行動に、心を打たれた。

**作品のテーマ**  
テーマは「重労働と人間のかかわり」である。棕 鳩十さんがつづいたことは、たとえ人間でも、重労働でも、心のエネルギーが近づいていけば、よきライバルになれ、正々堂々と向き合っていくというこころだと思える。

**大造じいさんの気持ちの変化ターニングポイント**

クライマックス後	クライマックス前
ガンの英雄	目まはれ残雪

大造じいさんは最初、「なんとしても残雪をつかまえてやる」と思っていたが、ほとり作戦での戦いの時、残雪が大造じいさんのほとりのガンを救ったことにより、大造じいさんは残雪のことを「ガンの英雄」と思ふようになった。残雪の仲間思いな行動によって、大造じいさんの気持ちを大きく変えた。

リーフレットを作った人

あらすじ

作品の  
テーマ

心に残った  
場面

大造じいさんの  
気持ちの変化

#### 4, おわりに (成果と課題)

本実践を終え、一番の成果と言えることは、児童の学習意欲の向上が見られたことである。学習意欲の向上は、児童の学習に取り組む姿勢の変化となって表れている。教師が提示した課題に沿って文学作品を読み進めるというこれまでの学習から脱却し、リーフレットづくりを目標にした「単元を貫く言語活動」を位置づけた学習へ授業を改善した成果である。このような指導過程による学習は、児童が主体的な「学び」を獲得することにつながった。その結果、児童は、文章の細部まで読み取るようになり、思考力の育成に結び付いたと考える。

自問自答しながら自力読みをさせたことは、「読み」の主体はあくまでも自分であるという意識をもたせることにつながった。そして、自分なりの読みをもった児童同士が意見交流をすることで、読みが深まっていった。遠回りをするようになるかもしれないが、児童一人一人が自分なりの読みをもつまでの過程を大切にしていけることが大切であると感じた。

今後は、読み取らせる文学作品に応じた「単元を貫く言語活動」を工夫し、学習の幅を広げていくことに取り組んでいきたい。そうすることで、児童の学習意欲はさらに高まり、学力の向上に結び付くものと考えている。